



concept

神田川の水源・井の頭恩賜公園。都によって、4年後の開園100周年に向け、風景を守る様々な事業計画が進む。

井の頭公園東端・三角広場。大きな井の頭公園の、小さな断片の広場であるが、街のひとびとのささやかな憩いの場。

井の頭公園の風景を守る、大きな試み。公園の拡張、失われた自然の再生。大きな変化を構成するのは、小さな変化ひとつひとつの集積。

小さな変化を大切にしたい。風景の守り方は考えられないだろうか。

小さな広場に今現存する、小さくても見えない豊かさ、ささやかなものへの気づきへと促す建築を提案する。

design cues

いちまい板
身体性を扱うもの、また公園の場となる要素としてのベンチやテーブル。そしてささやかなものをすくいとるための最小限の要素として、一枚板で建築を提案する。



4種の樹
三角広場の樹は4種ある。一枚板の建築を木々のなかを巡るように計画する。4種の異なる樹を話し、設計に取り込むことで、三角広場の四季を巡る建築となる。



いちまい板 ⇄ structure, material



site



井の頭公園東端・三角広場
井の頭池を水源とする神田川を辿って歩いていくと、公園の一区画である三角広場に行きつく。井の頭公園の中心部ににぎわいと少し異なった、街の人が日常的に訪れる広場。神田川のささやかなせせらぎに触れられる場所、子供たちがのびのび遊ぶ場所、それらを眺められる憩いの場所。三角広場の3つの場を巡るケンチクを提案する。



3つの場を生み出した地形、街のひとびとが守ってきた、せせらぎと人とのつながり



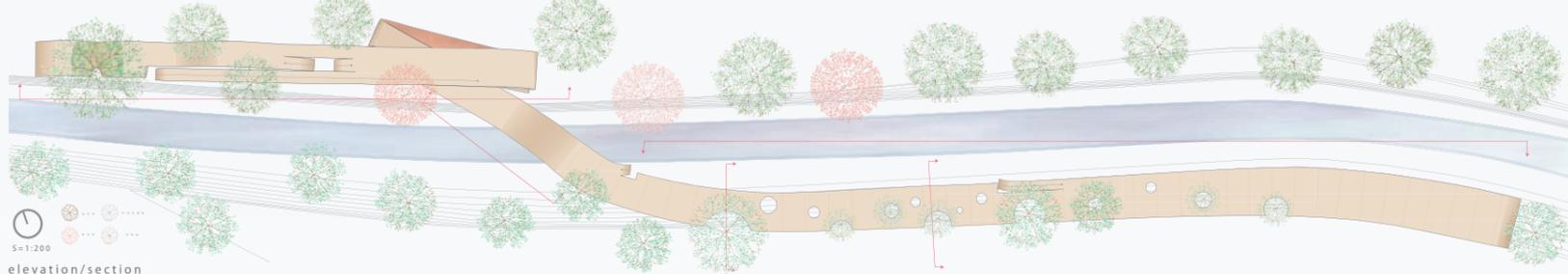
zoning plan



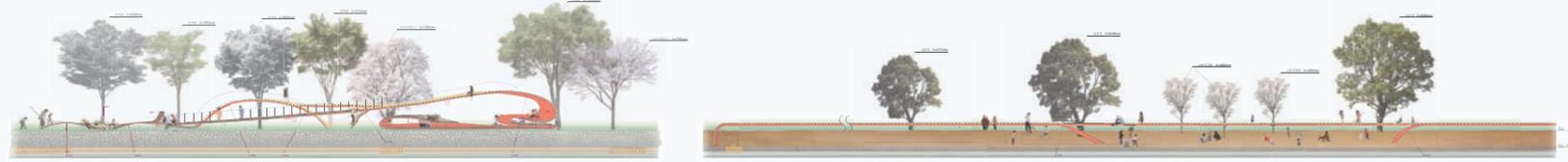
2本の橋のあいだ
せせらぎのうえを神田川水面から数えて2、3番目に架かる橋。さらにいちまい板は、樹々の中でベンチ、東屋、せせらぎに架かる橋、土の岸辺を覆うテーブルへと移り変わり、3つの場の間隔によってふるまいを変えながら、三角広場を巡っていく。



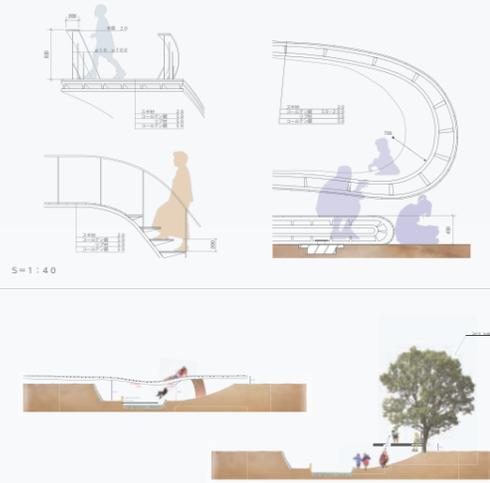
plan



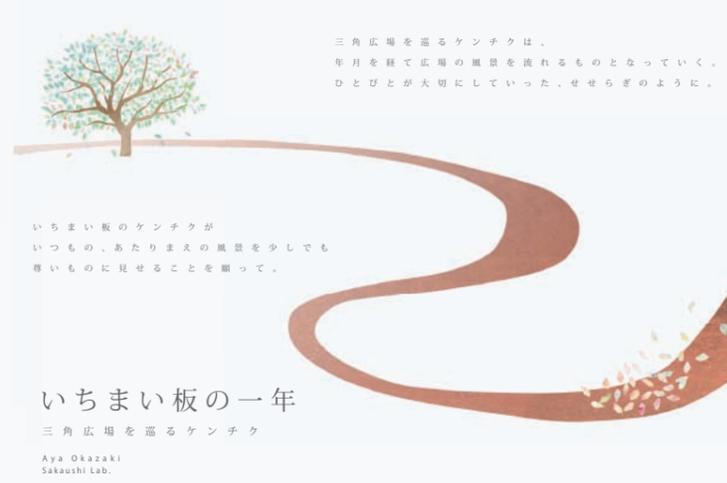
elevation/section



detail



4種の樹 ⇄ form, season



いちまい板の一年

三角広場を巡るケンチク

Aya Okazaki
Sakaushi Lab.